

高岡市教育将来構想検討会議

第4回学校教育小委員会

・日 時 平成30年7月11日(水) 17:25～

・場 所 高岡市役所 本庁舎 803 会議室

委員長：協議事項 1「英語教育等の教育内容の充実について」、事務局より説明願いたい。

事務局：資料1に基づいて説明。

委 員：現在は総合的な学習の時間の15単位時間を外国語教育にまわしている。高岡市の場合、総合的な学習の時間の一部をものづくり・デザイン科の授業に活用しており、これ以上総合的な学習の時間が削られると実施自体が困難になる。平成32年度から年間70単位時間の確保が必要だが、この影響で月曜も6時限になる可能性があり、職員会議の時間の確保も困難になる。また、英語の免許をもっていると専科教員となり、そのために5年から6年にあがる際にクラスの担任から外れてしまうということが起きた。様々な教科を教えたいという夢をもって小学校の教員になったのに、これではモチベーション低下が懸念される。英語の読み書きについては、ゲーム感覚でできるものなら小学生でも問題ないが、英語嫌いの中学生が多い中で、中学生レベルの内容が小学生に受け入れられるか疑問である。

委 員：小学校で本当に英語を好きになって中学校に来てくれるかが心配である。中学校の場合、1学期までは楽しくやっているが、2学期以降から差が出てくる。専門家が授業をしてその状況なのに、小学校でどこまでできるのか。資料1のP2の5にある「上記の教員の配置のない学校」とは上記の表でいうとどれが該当するのか。

事務局：専科教員がおらず、ALT、JTE、担任で指導している学校のことである。中学校の英語専科教員が乗り入れ授業を行うことにより、負担軽減が図られると考えている。

委 員：小規模な学校も含めて26校全ての小学校に専科教員の配置をするのか。

事務局：免許を持つ教員の増員が必要だが、それについては県の範疇であるため、市では何とも言えない。要望はあげているが、厳しいのではないかと認識している。

委 員：ヒト、モノ、カネを投資しないとうまくいかない。現在の小学校教員は、英語の授業を行うという認識で勉強してきていない。今後確実に授業のコマ数が増えると思われるが、教員の働き方改革が重視されている中で、研修参加や勉強の時間をとることは容易ではない。国や県に人材の養成・採用、配置基準の見直しなどを要望していかなければならない。どれだけ工夫をしても先は見えている。JTEを採用するとしても、それは市の負担になる。中学校からの乗り入れ授業にしても、今度は中学校の教員の負担増に繋がる。

事務局：現在、英語で乗り入れの授業を行っているのは、五位中学校・東五位小学校、高陵中学校・定塚小学校のペアである。国吉小学校・中学校では音楽で乗り入れ授業を

行っている。国吉であれば同じ敷地内のため、教員の移動も比較的容易だが、遠距離の場合は移動の問題が出てくる。中学校にあがる前に英語が嫌いになる、差がつくということも懸念している。そうしたことがないように、専科教員の配置要望も含めて取り組んでまいりたい。

委員：自分の子どもの状況でいえば、どうしても受験用の英語になってしまっている。話す、使うという点にまだまだ重点が置かれていないように感じる。JTE にはどのような方になっているのか。

事務局：英語が堪能な方だが、教員免許を持っている方、持っていない方いずれもいる。英語教育については、どのように授業を進めていけばいいか、担任、ALT、JTE の三者が協議をしながら取り組んでいる。

委員：現在どうなっているかは把握していないが、以前はキャビンアテンダントや企業で翻訳をされていた方などもいた。英語を話す能力に関しては教員よりレベルが上の方も多し。一方、指導という面では教員の方が上のため、双方で連携しながら授業を行っている。

委員長：協議事項 2「ICT 教育の充実について」について、事務局より説明願いたい。

事務局：資料 2-1～2-6 に基づいて説明。

委員：高校でも ICT 化は進んできているが、教員の中に抵抗感を示す方もいる。興味のある人はいいが、苦手な人や興味のない人は避けようとする傾向がある。また、ICT 化によりどれだけ成績アップに繋がるか統計的なものはないという話も聞いたことがある。小中学校においてどう具体的に活用するのも分からない。

委員：若い教員は比較的得意な人も多いと思う。ICT 化についても多大な費用がかかる。国からの補助はあるのか。

事務局：交付税措置となっており、補助はない。交付税は補助と違って用途が特定されていない。交付税の積算上で相当分が配当されていることになるが、その事業に充てられるかという点必ずしもそうではない。

委員：お金なくしてハード面の整備はできないため、何とかしなければならない。ただ、物さえ揃えば、多少時間がかかったり、セキュリティ上の課題などもあるとは思いますが、現代の子どもたちはこうしたものに慣れているため、そこまで問題はないと感じている。県内でも先進的に取り組んでいる高校もあるため、参考にするとよい。

委員：プログラミングの授業は総合的な学習の時間で行うのか。

事務局：プログラミングとして特別な授業枠はない。算数や図工の授業の中で行う予定である。例えば算数では、プログラミングで三角形を描くといったものである。新たにプログラムを組むというより、既に出来上がっているプログラムを繋ぐソフトを活用する。プログラミング教育はやらなければならないことになっているため、苦手意識を持っている教員もタブレットなどを活用して必ず授業しなければならない

い。

委 員：先ほどの話もあり、小学校の教員の多忙化が懸念される。これから小学校の教員を目指す人は大変だなと感じる。資料 2-6 のハード整備は全学校に導入していくのか。

事務局：既存のパソコンのリース期間が終了する学校から順次導入していきたい。

委 員：プロジェクターは設置型か。

事務局：移動型である。アクセスポイントと一緒に使用したい教室に移動させる必要がある。

委 員：小学校の教員は、英語、タブレット、プログラミング等と課題が山積みとなっている。コンピュータ等は使えば便利なのは分かるが、チョーク一本でやるんだという気持ちの教員もいるのが現状であり、そうした人には教えても中々定着しない。小学校 3、4 年生にコンピュータを教える際、外部講師を呼んで補助授業を行ったことがあるが、子どもも教員も分かりやすいと言っていた。大型テレビなどを導入するにしてもそれを設置できる部屋がない。ICT 化で効率化が図られるのかもしれないが、授業をする方は大変である。

委 員：プログラミング教育について、他の教科への活用はどうなるのか。

事務局：色々と研究・開発が進んでいる。タブレットを導入した場合、おそらく子どもたちは使いたがるので、特定の教室ばかりが使うということはなく、苦手意識を持つ教員も否が応でもやらざるを得なくなると思う。学習支援ソフトは優秀なものが多いので、自学自習で十分対応できる、優秀な子どもが苦手な子どもを教え、教員が子どもから学ぶことも多いと思う。この分野については子どもの方が習熟が早い。

委 員：プログラミングの科目として評価することはないのか。

事務局：教科ではないので評価の対象ではない。算数や図工などにプログラミング教育を取り入れ、その中で評価する。将来的にプログラミングができる人を増やしたいというのが目標で、小学校の段階からプログラミングに触れることで興味を持ってもらいたいと考えている。

事務局：プログラミングという言葉が強い印象があるためか、プログラミングの技術や知識を小学校のうちから習得させなければならないと捉えている人もいるようだが、決してそうではない。プログラミング的な発想力を教科に取り入れて身に付けていくというのが本来の趣旨である。

事務局：今すぐに何か効果が出るとは思っていないが、早いうちから導入し、そうした分野が好きな子を増やしていかないと情報難民しかいなくなってしまう。

事務局：タブレットの導入については教育総務課主導になるが、中にどのようなアプリを入れるかなどについては、学校現場の意見も踏まえて学校教育課で検討していきたい。

委 員：プログラミングに精通した人は企業に就職し、教育現場にほとんどいないのではないかと思う。

事務局：高岡工芸高校などは、自分でプログラムを組めるような大変優秀な教員が多い。小学校にはそこまでの能力をもった教員は少ないが、各学校に 1 名ずつ情報教育担当者を配置して、勉強会を開催してレベルの向上を図っている。中学校には技術の教員が元々配置されているため、そこまで心配する必要はない。ただ、小学校のプログラミング教育については、専門的なことをするわけではない。例えば三角形をプログラミングで描くときに、三角形の内角は 60 度だが、右に 60 度 5 センチ進めと命令してもうまくいかない。正しくは右に 120 度 5 センチ動かし、同じことをあと 2 回することで三角形が描ける。コンピュータはこう命令しないと思った通りに動かないということを論理的に理解、体験することが目的である。

委員：高校でもタブレット等は導入してきている。導入当初はいいが、時間が経過すると更新が必要になる。一度導入するとやめられないということが怖い。ペーパーレス化等を図るために教員にも持たせてきているが、今後の維持管理が大変である。また、生徒に持たせた場合は壊してしまうことが想定され、その後の補充はどうするのかという課題もある。これまで経験したことがないようなトラブルが起きることが懸念される。

委員：学校に導入するタブレットはリース方式か。

事務局：リース方式の予定である。そのため、新しいものに更新していくことは可能だと考えている。

事務局：当然だが予算は必要である。固定費としてみていかなければならない。

委員：全体会議で受益者負担の話もあったが、全て学校側で負担するのはどうなのかという思いもある。私立高校では入学したときに保護者がタブレットを購入し、卒業まで自己責任で管理している。義務教育という観点では難しいのかもしれないが、何でもしてもらって当たり前といった感覚を見直さなければいけないと感じている。

委員：自分たちがお金を払えば、子どもも大切に扱うだろうが、家庭間の経済的格差はどうしてもある。

委員：就学援助をうまく活用できればいいかもしれない。

委員長：協議事項 3「高岡市の教育課題と目指す方向性について」について、事務局より説明願いたい。

事務局：資料 3 に基づいて説明。

事務局：委員の中から、教育のあり方、目指す方向について熱心な意見もあったことから、今回資料をお示しした。本日お集りの委員の皆様については、教育現場に身近な方が多いため、こうした考え方は十分持っていていただいていることと思う。

以上